大賞部門 1

通りの地域資源を活かした『大正浪漫調』のまちづくり

福島県 会津若松市

七日町通りまちなみ協議会

1 社会資本の概要

福島県会津若松市は、福島県西部に位置しており、磐梯山や猪苗代湖などに囲まれた自然豊かな街で、多くの観光客が訪れる鶴ヶ城や白虎隊の自刃の地である飯盛山、温泉街などの豊かな自然や美しい風景・歴史・文化などが多く残っています。

その会津若松市にある七日町通りは、ＪＲ七日町（なぬかまち）駅から西へ伸びる約 800 mの古くから城下町の越後街道筋として栄えてきた通りで、明治や昭和初期の蔵や洋館、木造の商家などが数多く残っています。

七日町通り（社会資本）の位置図（会津若松市街図）

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

七日町通りは、明治・大正・昭和を彩るレトロな建物が多く立地しています。平成４年、全国に先駆けて会津若松市景観条例が制定され、七日町通りでは、レトロなまちなみ景観を基軸としたまちなみづくり推進のため、いち早く組織化を進め、平成６年に「七日町通りまちなみ協議会」を設立しました。

地域資源である「通りのまちなみ景観」を活かした『大正浪漫のまちづくり』というコンセプトを基に、数多く残っている明治や昭和初期の蔵や洋館、木造の商家など地域資源とも言えるレトロなまちなみを活かし、自然や歴史、文化などと連携も深めながら、地域の特性に調和した外観整備を実施したり、空き店舗対策、人材育成事業などを実施したり、通り全体として「おもてなしのまち（地域）づくり」を進めています。

平成 29 年度には、地域資源である“芳賀家蔵群”を再生した、「七日町パティオ」を新たな交流拠点としてオープンさせました。

なお、まちなみ整備の推進や修景、賑わいと交流促進を図るソフト面での取組実施にあたっては、専門家や大学教授のアドバイス、学生の若い感性も取り込み、多様な意見を反映しながら持続可能で安定的な体制を整えています。

七日町通り（上の区）

七日町パティオ（中の区）

七日町通り（下の区）

3 活動の成果や波及効果等

これまでに 52 軒の建物外観の修景を行い、38 軒の空き店舗解消につながっています。現在では物販業、飲食業、サービス業などの 81 店舗が立地し、まちなか観光拠点として、七日町には約 30 万人の観光客が訪れるようになりました。平成 14 年に大正浪漫調の洋館に改修した「ＪＲ七日町（なぬかまち）駅」には、カフェスペースの機能を持つ「駅カフェ」を併設しました。平成 29 年度には「七日町パティオ」がオープンし、七日町への来街者の増加に合わせて、売上、集客数ともに年々増加を続けています。

七日町パティオ内での
マルシェの様子

七日町駅舎

4 前回受賞時からの活動の発展内容

滞留拠点「駅カフェ」「七日町浪漫デッキ」などのハード整備に加え、賑わいと交流促進を図るソフト面での取組を積極的に行ってきました。また、今後インバウンドを想定した事業展開も計画し、会津地域における新たな消費拡大への貢献を目指し外国人へ七日町通りの魅力を適時的確に伝える「まちなかガイド」や、宿泊機能を多様化するゲストハウスの整備を予定しています。

喜びの声

受賞者

七日町通りまちなみ協議会
会長　渋川　恵男

コメント

協議会発足当時、七日町商店街は３軒に１軒が空き店舗という状況の中で、会員がそれこそ手づくりで活性化に取り組んできました。インフラ整備では国や県、市の支援をいただきながら、現在、約 30 万人の来街者を数えるまでになりました。七日町には自慢できるような大きな施設はありません。地べたに這いつくばって賑わいの創出に努力してまいりました。地方の人口減少が叫ばれる中、私たちは次世代が愛着をもち、七日町に住んでみたいと思えるような街を目指して行こうと思っています。

活動の内容

空き店舗対策や店舗修景、レトロな町並み景観の創出、拠点施設の整備、地域資源の発掘など

活動の経緯

平成　６年　協議会設立
平成 10 年　地域づくり功労賞
平成 14 年　第 17 回手づくり郷土賞受賞
平成 22 年　都市景観大賞美しいまちなみ優秀賞
平成 25 年　住まいのまちなみ賞

所在地

福島県会津若松市七日町

活動主体及び連絡先

七日町通りまちなみ協議会（090-2984-9113）

対象となる社会資本

七日町通り（国道 252 号）※管理者：福島県